

■基本構想懇談会意見概要と対応

[意見分類 凡例]

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1.市の特性（緑の特徴、まちの魅力・強み等）に関して | 2.フェアのあり方（基本コンセプト等）に関して |
| 3.今後のまちづくり、コミュニティづくり、新たなライフスタイル等に関して | 4.様々な主体の参画・協働・連携等に関して |
| 5.会場計画に関して | 6.地区別の計画に関して |
| 7.情報発信・共有や関心を高める取組に関して | 8.環境教育、学習に関して |
| 9.緑の環境整備（グリーンインフラ）に関して | 10.生態系、環境負荷等に関して |
| 11.その他の具体的な取組に関して（都市農業、都市緑化、水辺活用等） | 12.社会変容や社会情勢等に関して |

懇談会	意見分類	委員	議事録頁	意見概要	基本構想での対応	基本計画策定に向けた対応案
1	2	倉島		コンセプトとして川崎の魅力と地域力の促進にフォーカスするのがよい。	第1章「多様性は可能性」、第2章「川崎フェアが目指すもの」全般に反映	
2	1	鈴木		川崎が東京と横浜の中心にあるという認識の変化がある。	第1章「『川崎100年の変遷』等に反映	
3	1	萩原		二ヶ領用水を核として栄え、工場移転の後にマンションが建設という川崎の歴史をとらえる必要がある。	第1章「『川崎100年の変遷』等に反映	
4	2	和城		これまでの緑を削って都市化を進めてきた歴史から、自然を作り直していかに共存していくかがテーマとなる。	第1章「かわさき100年の変遷」 第2章「川崎らしい“みどり”のストック」等に反映	
5	3	池田		人のつながりを回復するのに地域の緑や農の力がある。様々な問題解決につながる。	第2章 かわさきフェアが目指すもの全般に反映	
6	4	佐藤		多様な人同士がつながる仕掛けとして「みどり」を子どもに伝えることができるとよい。	第2章「未来に繋ぐ「きっかけ」のつくり方」等に反映	
7	1	佐藤		子どもに川崎のまち形成の歴史を伝えることが大事。	第2章「未来に繋ぐ「きっかけ」のつくり方」等に反映	
8	9	佐土原		グリーンインフラのあり方を市民に訴えていくことが、出発点として大事。	第2章「川崎らしい“みどり”のストック」等で記載	
9	6	佐土原		地域別にこれからのあり方を具体的に示すことができるとよい。	第2章「川崎らしい“みどり”のストック」等で記載	
10	2	渡辺		川崎の多様性について具体化する必要がある。	第1章「『多様性は可能性』、第2章 かわさきフェアが目指すもの全般に反映	

懇談会	意見分類	委員	議事録頁	意見概要	基本構想での対応	基本計画策定に向けた対応案
11	1	2	渡辺	何をレガシーとして残したいかを市民と早めに共有することが大事。	第1章「『多様性は可能性』、第2章かわさきフェアが目指すもの全般に反映	
12	1	2	反町	フェア後につながる仕組み、きっかけを作ることが大事。	第2章「未来に繋ぐ「きっかけ」のつくり方」等に反映	
13	1	7	反町	持続的に市民の興味・関心を高めていく取組が必要。	第2章「未来に繋ぐ「きっかけ」のつくり方」等に反映	
14	1	2	野村	多様性とみどりをつなぐことがポイント。市民がその強みを十分に理解していくことが重要。	第2章かわさきフェアが目指すもの全般に反映	
15	1	11	野村	市民の取組の数を増やしていく目標の設定もある。	第2章かわさきフェアが目指すもの全般に反映	
16	1	12	佐土原	コロナ禍の中で屋外環境の見直し、みどり環境の見直し、	第1章「新たなライフスタイル」、第	
17	1	12	佐土原	コロナ禍の中で公園緑地は人々のつながりを保てる空間として質を高めていくことが期待されている。	第1章「新たなライフスタイル」、第2章かわさきフェアが目指すもの全般に反映	
18	1	5	今井	会場以外でも緑のスポットを設けることが必要である。	第2章「川崎らしい“みどり”のストック」等で反映	
19	1	1	涌井	市の特性として多様性、寛容性がある。その可視化が課題。	第1章「川崎100年の変遷」「多様性は可能性」「新たなライフスタイルへ」等に反映	
20	1	2	涌井	文化や産業、その多様性をつなぐ媒介として「みどり」を捉えていく視点が必要である。	第2章「かわさきフェアが目指すもの」全般反映	
21	1	2	涌井	地域の構造を理解するきっかけとしてフェアが活用されるとみどりの価値が高まる。	第2章「かわさきフェアが目指すもの」全般反映	

	懇談会	意見分類	委員	議事録頁	意見概要	基本構想での対応	基本計画策定に向けた対応案
22	2	10	佐土原	別紙	生態系をポストコロナ社会のグリーンインフラとしてしっかり位置づける。		3ポイント①に反映
23	2	7	佐土原	別紙	みどりムーブメントの推進においては情報技術の活用が重要。		3ポイント③に反映
24	2	4	渡辺	別紙	フェアを支える多様なステークホルダーが重要。各教育機関、NPO、企業、団体等。それらの役割を明確にする。		5（2）協働推進に反映しているが、役割の明確化については今後検討
25	2	4	反町	別紙	市民の巻き込み、思いの共有、実際の参加が重要。Webを活用した情報発信、地域（既存組織）とのつながり（商店街・商業施設、学校、既存イベント等）が重要。		5（6）広報宣伝に反映
26	2	2	倉島	5	地域愛の醸成を目的としたフェアに。市の多様性を感じさせるフェアに。		1開催目的に反映
27	2	5	倉島	5	拠点は川崎駅周辺の1ヶ所だけでなく、小さなみどりの拠点をつくる必要がある。		5（1）会場イメージに反映
28	2	11	倉島	5	全市的に継続的に取り組むことが戦略として必要。		5（1）会場イメージに反映
29	2	7	蕪木	6	地域の魅力発信の面を強化。各区の特徴を強く引き出しつつ、全市的な一貫性を持たせる。		5（1）会場イメージに反映
30	2	12	蕪木	6	身近な公園での世代を超えた地域のつながりを生み出せる取組が重要。		5（1）会場イメージ会場計画や5（2）協働推進に反映
31	2	12	蕪木	6	二ヶ領用水の活用、水辺を活性化したまちづくり。		5（1）会場イメージに反映
32	2	3	池田	7	川崎市だからできる緑のある暮らし、新たなライフスタイルの可能性。		1開催目的に反映
33	2	6	和城	8	地域ごとに分けての多様性の明確化、地域が目指す方向性の明確化。		5（1）会場イメージに反映
34	2	4	今井	8	多様性の観点からも準備段階からの市民の参画。		5（2）協働推進に反映
35	2	5	萩原	9	この機会にメイン会場だけでなく、市内の様々な緑のスポットが注目されるとよい。		5（1）会場イメージに反映

懇談会	意見分類	委員	議事録頁	意見概要	基本構想での対応	基本計画策定に向けた対応案
36	2	7	鈴木	10	川崎市だからできることを皆で共有していくことが大切。	5（2）協働推進に反映
37	2	2	棚野	11	フェアのイベント後の次につなげていくことが重要。	4取組のイメージに反映
38	2	1	涌井	12	市の緑を守ってきた歴史をきちんと書き込む必要がある。	今後基本計画策定の中で検討
39	2	12	涌井	12	市の多様なオープンスペースの活用が重要なテーマ。	3取組のポイント②に反映
40	2	10	涌井	12	生物多様性についてもしっかりと取り組むべき。	3取組のポイント①に反映
41	2	11	倉島	14	文化としての農業、レジャーとしての農業、癒しとしての緑が享受され、双方にメリットがある未来が描けるとよい。	川崎の多様なみどりの中で農については取り上げているが、具体的な方策として今後検討
42	2	2	池田	14	フェアが農業や自然の魅力に気づききっかけとなればよい。	今後基本計画策定の中で検討
43	2	11	萩原	15	都市農業の掘り起こし。	今後基本計画策定の中で検討
44	2	5	和城	16	富士見公園のほか、北側の等々力緑地などもメイン会場として検討してもいいのではないか。	5（1）会場イメージに反映
45	2	5	涌井	16	メインとなる富士見公園の役割をきちんと説明する。富士見公園からネットワークされた先が大事である。	5（1）会場イメージに反映
46	3	4	反町	6	緑に関する団体や商店街等の既存団体の活用、巻き込みが重要。	5（2）協働推進に反映
47	3	11	反町	6	工場夜景などは緑からは遠い印象。工場緑化など市民からは見えにくい。	具体的な方策として今後検討
48	3	12	反町	6	幅広い世代に人気のあるアウトドアの観点から緑の魅力の発掘、活用を促進。	具体的な方策として今後検討
49	3	3	蕪木	7	多様な緑による川崎市における新たなライフスタイルの提案の具体性を高める。	具体的な方策として今後検討
50	3	4	蕪木	7	全ての市民の参加に留意、パラムーブメントとの連携など。	5（2）協働推進に反映
51	3	6	蕪木	7	地域ごとに細かな特色出し、取組の明確化が必要。	5（1）会場イメージに反映
52	3	1	池田	8	多様性のカオス性に着目。いろいろな多様性の打ち出し。	具体的な方策として今後検討

	懇談会	意見分類	委員	議事録頁	意見概要	基本構想での対応	基本計画策定に向けた対応案
53	3	3	和城	9	コロナ禍の中での新たなライフスタイルの提示をコンセプトとして前面に。		1 開催目的に反映
54	3	11	和城	9	マッピング資料の工夫（スタンプラリー等）により参加を促進。		具体的な方策として今後検討
55	3	11	萩原	10	マイクロツーリズムとの連携による取組の広がり。		具体的な方策として今後検討
56	3	8	佐藤	11	子どもの環境教育の重要性。		具体的な方策として今後検討
57	3	4	佐藤	11	各種団体とのコラボによる多様性の気づき、アプローチの提示。		具体的な方策として今後検討
58	3	7	今井	12	市民に興味を持ってもらうための取組の強化。		具体的な方策として今後検討
59	3	11	鈴木	13	周辺都市、地域を超えた連携も重要。		具体的な方策として今後検討
60	3	11	渡辺	14	市民の参加・活動そのものを見せる。		5（2）協働推進に反映
61	3	7	渡辺	14	新たなコミュニケーションツールによる発信力の強化。		5（6）広報宣伝に反映
62	3	2	渡辺	14	フェア後を意識したシナリオデザインに留意。		具体的な方策として今後検討
63	3	9	佐土原	15	グリーンインフラの視点をしっかり打ち出す必要がある。		3取組のポイント①に反映
64	3	10	佐土原	15	生物多様性の観点からの中小河川流域の活用。		3取組のポイント①に反映
65	3	3	佐土原	15	都市のあり方（都心でも緑を感じられる生活）の提案。		3取組のポイント②に反映
66	3	1	涌井	16	緑が触媒となった多様性の表現に留意。		4取組のイメージに反映
67	3	9	涌井	17	豊かな日常に根差すグリーンインフラの推進。		3取組のポイント①に反映
68	3	11	涌井	17	緑の宣言後のアフターイベントの企画・推進。		具体的な方策として今後検討
69	3	8	野村	18	10年20年の時間軸を見据えたプラン内容も重要。（こどもへの環境教育など）		具体的な方策として今後検討
70	3	11	野村	18	社会実験による取組、実践。		4取組のイメージに反映
71	3	10	池田	19	環境負荷の低減というライフスタイルへの参加を促進することが重要。		3取組のポイント④に反映
72	3	3	蕪木	19	新たなライフスタイルの観点から都市農業をとらえる。		具体的な方策として今後検討
73	3	7	反町	20	情報発信の仕方を工夫。ユーチューブやSNSの活用。		5（6）広報宣伝に反映
74	3	4	萩原	20	緑化宣言による幅広い主体の巻き込み。		具体的な方策として今後検討
75	3	11	萩原	21	緑化活動をリスペクトするような仕組み。		5（2）協働推進に反映
76	3	11	渡辺	21	社会実験、トライアル事業の推進、計画への位置づけ。		4取組のイメージに反映

	懇談会	意見分類	委員	議事録頁	意見概要	基本構想での対応	基本計画策定に向けた対応案
77	3	9	涌井	22	グリーンインフラ（共有財産、自然資本財）の考え方の浸透。		3取組のポイント①に反映
78	3	11	涌井	22	都市農地への着目、評価、活用。		具体的な方策として今後検討
79	3	11	野村	23	都市農地の有効性、活用や市民参加の可能性。		具体的な方策として今後検討